

と し ょ か ん 宇 治

No. 16

1988年10月1日 発行

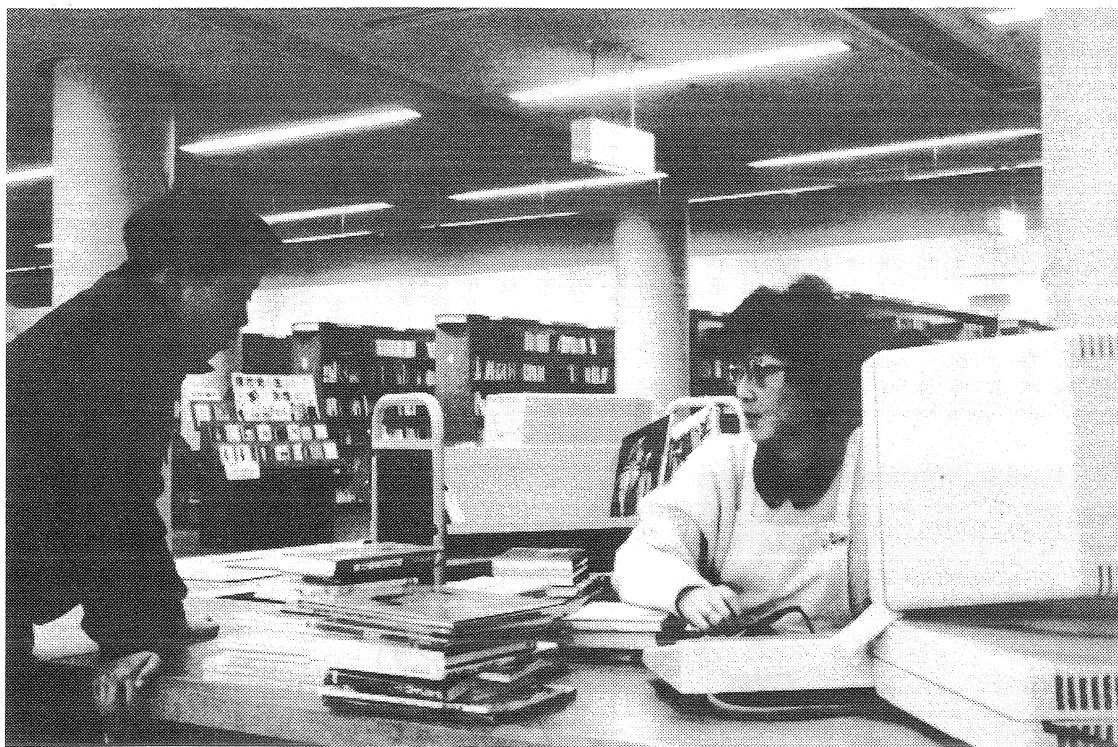
宇治市中央図書館

宇治市文化センター内

▽611

宇治市折居台1丁目1番地

電話 (20) 1511



私と読書

宇治市図書館協議会委員

池 本 甫

おおよそ読書など縁のない私でしたが、昭和四十八年のオイルショックの時にたまたま読んでいた本が、アメリカの有名な未来学者でハーマンカーン博士の書かれた「超大国日本の挑戦」と言う本でした。半分ぐらい読んだところで、石油ショックに出合いました。七月か八月であったと記憶しています。丁度その時京都府の中小企業経営講習会が行なわれ、私もそれに参加をしております。講師の先生はたしか京都大学の経済学教授で名前は記憶しておりませんが、ハーマンカーン氏の見方とは違った方向を示されました。「超大国日本の挑戦」には二十一世紀に向けて、日本はますます繁栄するであろう事が書かれています。いったいどうなったのか当時は知るよしもありませんでした。もう日本の繁栄はおろか足腰も立たないようになるのは必至と思われました。日本の大部分の方々の見方も同じであっただろうと思います。しかし、私は興味深く後の半分を読みました。多岐に亘る分析・情報、工業力・高成長持続の根拠が十二項目に亘って細かく分析されて書かれています。本当にこの様になるのでしょうかと半信半疑でした。しかし結果は周知の通りであります。

これ以後、政治、経済等に関する新刊書は必ず購入するようにしています。この文章を書かせていただくと同時に、今一度「超大国日本の挑戦」を読みかえして当時の事を思い浮かべながら豊かな日本国に感謝し、平和な世が続く事を願うものです。

子育てに本を！

—— 児童文学者が語るあつい想い ——

読書週間記念講演会

子供の読書離れが全国的に話題になっていく昨今、子供をとりまく状況は以前とはかなり変わったものになってきています。しかしながら、一冊の本との出会いが子供の心を豊かにし、その後の人生を変えていくことも決して少ないことではありません。

今年の読書週間記念講演会は、幼児から小学校低学年の子供をもつお母さんを対象に、「子育てに本を」児童文学者が語るあつい想い」をテーマに、子供と本のかかわりについて、児童文学作家である松居直氏に講演していただきます。松居氏は福音館書店編集長として月刊絵本「こどものとも」を創刊され、「ももたろう」

日時 十一月十一日(金)
午前十時～十二時
場所 中央公民館展示集会室
主催 中央図書館
共催 サークル「絵本の会」
入場は無料です

によりサンケイ児童出版文化賞を受賞、今日の絵本の隆盛に寄与した第一人者です。絵本の創作や評論活動にも活躍され、主な著作に「こぶじいさま」「だいくとおにろく」「びかくんめをまわす」「絵本をみる眼」「絵本を読む」「絵本とは何か」等があります。

講演は、読みつがれた本など先生が推薦される本をもとにしながら、読書がいかに子供の情操を高めるかについて、子供と本のかかわりについて、児童文学作家である松居直氏に講演していただきます。松居氏は福音館書店編集長として月刊絵本「こどものとも」を創刊され、「ももたろう」

の 行 事 報 告

夏

中央図書館では八月、「平和への伝言」と題して、戦争や平和に関する成人書の展示を行いました。「庶民、作家、兵士が綴った戦争」という三つのジャンルに分け、全部で約四〇〇冊の本が並びました。また、八月十六日から十九日までは、夏休み宿題相談コーナーを開設しました。連日、宿題を抱えた小・中学生が集まり、相談件数は四日間で七十五件。その他、八月十一日の夏休

め、人間性を形づくるのに大きな役割を果たすものであるかについて話していただく予定をしています。子育てに大忙しのお母さんや絵本など子供の本に関心をお持ちの方、どうぞお誘い合わせの上、多数ご来場いただきますようお願いいたします。

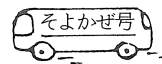


みおはなし会には約百名ほどの子供たちが集まりました。



「平和への伝言」図書展示

はしれ！ そよかせ号



こんにちは、市内二十五の駐車場へ、毎月巡回して本を貸出す移動図書館車そよかせ号です。七・八月は、

「夏休みだから、沢山本を読むぞ」という子どもたちもまじえて、多くの方に利用していただきました。例年より涼しい日が多かったとはいえ、やっぱり夏。そよかせ号の到着をまちかねて乗車した利用者を迎えて、車内の温度は急上昇!! 車内冷房も、なかなか効かなかった駐車場も多かったのですが、自分で選んだ本を袋一杯に入れて満足そうに帰る子どもたちをみると、暑さもふっとんで職員もうれしくなります。

ところで、そよかせ号でも本の「予約」ができることをご存知でしょうか。読みたい本が車内に見当たらない時、予約していただくと、次の巡回までに行けるだけ用意してお届けする制度です。「読みたい本を、近くまで持ってきてもらって!」と利用者の方からねぎらっていた「予約制度」も活用して、そよかせ号を身近な図書館としてお気軽にご利用ください。

図書館へようこそ

利用者インタビュー

第 5 回

木村 哲夫 さん



〈そよかぜ号車内での木村さん〉

— そよかぜ号をご利用いただいているようですが……。
— 今まで一、二度休んだぐらいで、ほぼ毎月行っています。一回に四

「移動図書館・そよかぜ号を利用して十年近くになります」と言われる木村さん。今回の『図書館へようこそ』は木幡花揃にお住まいの木村哲夫さん（四十六歳）にお話を伺いました。

五冊借ります。中央図書館へは身体の事情もあり、行けません。— 木村さんと本のかかわりについて聞かせてください。昔は少年雑誌を読んでいましたが、入院した時に本を読むようになりまして。その時は、親父の会社の図書館から借りたものです。今は仕事の合い間などに読んでいます。

— どのような本を読まれますか。山村美紗や赤川次郎など、主に推理小説です。その他、カメラ、ワープロなど趣味の本も読みます。そよかぜ号で借りる本は車内で見て選びます。

— 移動図書館に対してご意見、ご要望はありますか。利用者に対して「ごくろうさまです」と声をかけてくださるのが、何よりうれしい気がします。要望は、特にあげれば、そよかぜ号がもっと近くに來てくれれば言うことではないのですが……。

— 図書館全体について、ご感想なりご要望がありましたらどうぞ。そよかぜ号の利用で充分満足していますが、近くに分館ができれば、手にとって選べる本が多くなり、ありがたいと思います。— ありがとうございます。

さんぽみち

「この本が読みたいの」「こんなことを調べているんだけど、何か本あるかなあ」「何か、おもしろい本ないかしら」利用者の方はいろいろな要求をもって図書館へやってこられます。利用者の方が求めている資料が何で、要求が満たされたかどうかは、利用者の方との対話によってわかります。資料案内は図書館員という『人』による仕事です。

カウンターで、本をバサ、ドサ、コンピューターでピーピー、返却日のしおりをスー……これは自動販売機やロボットがしている仕事であって、図書館が貸出すのは『物』ではなく、人類の英知の結晶であり人類の魂の記録であるのです。

「こんにちは、お久しぶりですね。」「やっと涼しくなったわね」私達は利用者の方に気軽に声をかけてもらい、相談や貸出で、満足していただける様な図書館にしたいと願っています。— 来館されたがあいにく読みたい本が貸出中、又はなかった場合、予約・リクエストの制度があります。これは利用者の方が読みたい

と思われる本を可能なかぎり提供するという機能を生かすためのもので年々定着してきており、毎日「モシモシ、中央図書館です。予約された本が用意できました。」「まあ、ありがとうございます。うれしいわ、楽しみにしていたのよ」「はい、すぐに借りにいきます」という返事をいただきます。読みたいと思っていた本を得た時の喜び、その喜びが私達にもわかり、私達もそれが喜びとなります。

これからも、予約・リクエストを活用していただき、喜びがふえるよう最善をつくしたいと思えます。

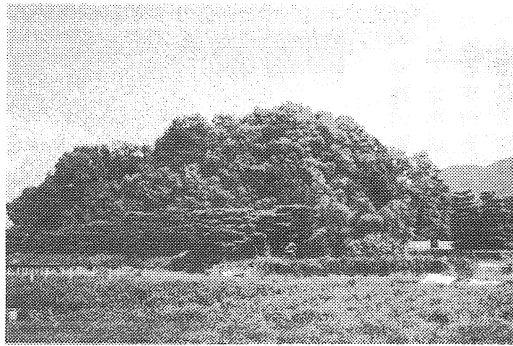
— この一冊は絶対無二の一冊なりされば身心をあげて検索すべし—



昭和六十三年六月二十三日付で宇治市図書館協議会の委員の一部に変更がありましたのでお知らせします。(敬称略)
二号委員
細野恵子 → 山西春子

郷土のはなし

菟道稚郎子



〈菟道稚郎子の墓〉

応神天皇の時代、近江国への行幸のおり、木幡の地を通られた天皇は、その地の有力豪族和珥氏の娘「宮主宅媛」と出会われ、妃とされました。やがて二人の間には「菟道稚郎子」が生まれました。仁らについて典籍を学びよく通曉し、次第に天皇の寵愛をうけ、兄の「大山守命」や、「大鷦鷯尊」をおいて皇太子にたてられました。応神天皇の死後、皇位継承の争

いがおこります。(新旧の豪族による対立がその背景にあったといわれています)「菟道稚郎子」は「大山守命」の乱を計略をもって鎮め、「大鷦鷯尊」と天皇の位を譲り合った末、年長の兄を位につけるため自ら命を絶しました。そして菟道山に葬られたと日本書紀に記されています。これにより大鷦鷯は天皇となりました。この方が「仁徳天皇」です。ところで、現在宮内庁では京阪三室戸駅西の墳丘を「菟道稚郎子の墓」としていますが、朝日山をはじめ諸説があります。

「菟道稚郎子を詠んだ歌」
妹らがり今木の嶺に茂り立つ
妻松の木は古人見けむ
(今木の嶺に並んで植わっている
いとしい人を待つという名の松の
木は、ここにおられた昔の方が
みていられたものであろう)

ところで「菟道稚郎子」などの「菟道」を(うじ)とよびますが、今日使用している「菟道」(とう)というよび名は明治以前には記録されていません。(うじ)という名はどこから来たのかは諸説のあるところで、内外の内からきたともいわれていますが、今日では山に囲まれた内側からきたのではないかといわれています。

編集後記

◆ 今回の「郷土のはなし」は菟道稚郎子を取り上げました。宇治散策の機会があれば、宇治橋からちょっと足をのばし、古代

◆ 活字の恋しくなる季節。本をいっばい詰め込んで旅にでも出かけたくなる気分です。深まる秋に良書との出会い。図書館はあなたのご利用を待っています。

◆ ロマンの息吹を感じられてはいかがでしょうか。

本をかりるには

一 利用案内一

中央図書館
市内にお住まいの方、市内に通勤・通学されている方ならどなたでもかりられます。
・貸出は、1人3冊、3週間です。
・開館時間は、9時～17時です。
・休館日は、毎週月曜日・毎月末日
国民の祝日・年末年始
土曜・日曜もあいています。

移動図書館
月に市内25カ所を巡回しています。
・貸出は、1世帯に20冊までです。
・次回巡回日に返却して下さい。
・日時・場所は、毎月1日号の市政だより「そよかぜ号」巡回日程をご覧ください。

予約・リクエストもできます。